

お盆は川西大霊苑へ。 和みのひとときをお過ごし下さい。

日本の良き風習を大切に。

家族の絆を深め、ご先祖様をうやまうひととき

お盆・お彼岸について

暑中お見舞い申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。もう皆様は夏のごあいさつをする時期になったのかと、過ぎ行く日々の早さに驚いております。

新聞、テレビから流れる報道の数々に、私たちの未来に不安を感じずにはいられません。一人一人が平穩無事な日々を一日でも多く過ごせる事が、何より有り難い事ではないかと思えます。

いつもの事ながら、今年もお盆を迎えるのですが、祖父母・親・兄弟姉妹の深い絆で結ばれる家族は、ご先祖様に見守られての有り難い繋がりであるということ、再認識して、今日あることへの感謝の気持ちをお慕参りでお伝えできればなによりかと存じます。

皆様、日々お忙しくお過ごしのこととは思いますが、ご先祖様を囲み、ご家族で想い出を語らう

ひとときは、何にかえがたいものではないでしょうか。お墓参りを通して自らを振り返り、心を引きしめ、生かされている事への感謝をご先祖様にあらわすことは、未来を明るく照らしていく第一歩と言えるでしょう。

当霊苑ではお盆供養祭を8月8日に執り行います。盛夏の中ではありますが、ご家族お揃いでのご参詣お待ちしております。

職員一同が親切な対応を心がけることを常に念頭において、管理させて頂いております。各種サービスも充実させていきますので、どうぞご利用ください。

川西大霊苑所長 北浦 信夫



お盆・お彼岸の豆知識

お盆の由来

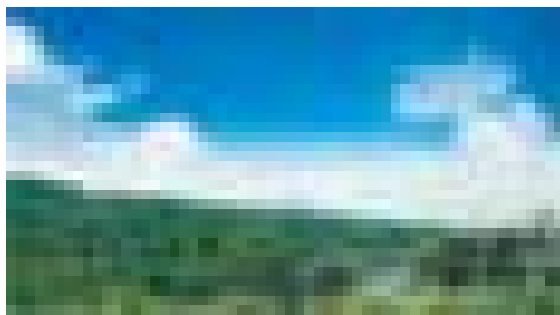
お盆の正式名称は「盂蘭盆会・うらぼんえ」と言います。お釈迦様の弟子の目連の亡き母が苦しみの世界に落ちて苦しんでいる時お釈迦様に助けを求め、7月15日に供養したという説話に基づくと言われています。死者の霊の救済を願い、冥福を祈る仏事です。明治時代に太陽暦が導入された際に8月15日頃行われるようになりました。

お彼岸の由来

お彼岸は仏教用語の「彼岸」に准えて作られた行事で千二百年前に国分寺の僧侶が仏を供養したのが始まりと言われています。お彼岸は春分・秋分の日と、その前後3日を中心とした一週間となっています。

「彼岸」とはこの世である「此岸」の対義語で、あの世であり悟りを

開いた者の世界という意味があります。



雄大な自然の中でゆったりとお参りして頂けます。

祖先や家族の霊が帰ってくると言われるお盆では、きゅうりやなすにマッチや割り箸をさして動物に見立てた精霊馬を作るのが習わしです。

きゅうりの馬は少しでも早く帰って来てくれるように、なすの牛は少しでも遅くなるようにという願いが込められています。

お盆の時には先祖や家族の霊が家迄迷わないように迎え火を焚くのが慣わしです。お盆の終わりとなる8月16日には送り火を焚いて帰りを見守ります。

迎え火と送り火は焙烙皿によく乾燥させたオガラやマコモを焚いて行います。送り火では京都の大文字焼きや灯籠流し、精霊送りが有名です。

